

平成26年度 学校関係者評価書

| | |
|-----|-------------|
| 学校名 | 和歌山市立西和佐小学校 |
| 作成日 | 平成27年3月2日 |

1 教育目標

強いからだと明るい心を持つ子どもの育成

2 学校の自己評価についてのご意見

| | 開かれた学校 | ゆたかな心 | 確かな学力 |
|------------|---|---|---|
| 重点目標に対する意見 | ◇学校のさまざまな教育活動を学校だよりや学年・学級通信や授業参観、学級・個人懇談会等を通して詳しく知らせることは、子どもや学校の様子がわかるので有意義なことである。学校の児童・保護者・地域がトライアングルとなって取り組む活動を増やしていったらよいだろう。 | ◇子どもたちの学力や体力を高めるだけでなく、人権意識や道徳的な面を高めていくことは大事なことである。子どもの豊かな心を育てていくには、保護者や地域・自治会の力を活用しながら心に響く豊かな体験活動を取り入れながら進めていってほしい。 | ◇本校の研究は、基礎学力の向上やコミュニケーション能力の向上に取り組んでいるが、家庭の学習環境・学習習慣を考慮することも大切である。この地域は3世代同居も多く、「宿題やったか？」と声をかけてくれる家族も多いが、学校と家庭と連携した学力向上をめざしていくことも必要である。 |

| | | | |
|-------------|--|---|--|
| 取組の状況に対する意見 | ◆保護者向けのアンケートでは、まずまずの成果を収めている。学校だよりや学年だより、学級通信などを通して学校の実情を広く地域に知ってもらうことは、とても有意義なことである。学校からだけでなく、育友会からの「にしわさ新聞」の発行回数を年2回から増やしてみてもよいのではないかと。 | ◆子どもたちが縦割りで活動しているのはいい雰囲気である。また、自分の子どもの様子からも学級の子もたちが仲よくできていることがわかる。「にしわさ活動」は同じ学級や学年だけでなく、上級生と下級生との温かな人間関係をつくるのに役立っている。道徳や小学校段階でのしつけも大切である。 | ◆学校は学力の向上のためにさまざまな取り組みをしていることがわかる。しかし、全国学力テストに対して教員の価値観がさまざまであると聞く。現職教育で結果を分析し、教員自身が問題を解いてみて、そこから児童の学習への課題を解決していくことが望まれる。 |
| 検証結果に対する意見 | ○学校からは学校だよりや学年だより、学級通信などが出ている。育友会からも広報誌が出ているが、コーディネートなど少しお金を出して、プロに紙面づくりをまかせてより読んでもらえるような紙面づくりをしていくことも一つの方法である。 | ○現在、子どもたちも含め、人間関係が希薄化しているといわれる。西和佐小学校では子どもたちは落ち着いて仲よくしている。そういう今だからこそいじめが起こりにくい学校・荒れが生じにくい学校にするように進めていってほしい。 | ○言葉の力向上のためには読書活動の充実が大切である。今後、図書室と蔵書を整備して子どもたちが興味をもって読める本をいっそう増やしてほしい。興味をもつような書籍をそろえないと読書活動は活発になりにくい。 |
| 改善方法に向けての意見 | ◎子どもの様子を保護者に伝えるのに、学校だより・学年だより・学級通信などに取り組んでいるが、ホームページをどれくらい見られているかポイントを見ていくことも大事である。最近ではフェイスブックなどのSNSを使う保護者が多いので、気軽に書き込みをしてもらえるようなものを検討してみてもよい。 | ◎子どもたちに豊かな心を育てていくのに道徳教育は大事であり、本校は人権教育にも力を入れているが、情緒、美しいものを美しいと感動する心やそのための体験を取り入れて実践していってほしい。今、西和佐でないとできないような地域とも有機的につながった取り組みをしていってほしい。 | ◎学力向上の手立てを行っているが、家庭で学習する習慣づくりにも力を入れてほしい。中学3年生でも土、日で30分以内しか家庭学習をしない中学生も見られる。「土、日は何をしましたか。」というアンケートをとっている県もある。家庭で宿題がなくても粘り強く学習に取り組む習慣をつけていってほしい。 |

3 その他のご意見

◆トイレなどの施設面での古さや貧弱さが気になる。教員や児童のパソコンに続き、エアコンが中学校から整備されつつあるとのことだが、トイレなどの設備面、ハード面において保護者・地域が一体となって行政に働きかけることも大事である。